

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ひばり学園		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 19 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31 名	(回答者数) 27 名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 19 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 名	(回答者数) 6 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 27 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であること。 子どもの育ちや課題を、すぐに保護者と共有できる。	保護者とよく話すことを心掛けている。その日の保育のねらいとその姿を、実際にやって見せるなどしてわかりやすく伝えている。 保護者同士の交流の機会も作っている。 家庭や併行通園先での様子を聞かせてもらい、必要時には関係機関と連携している。	保護者支援、きょうだい支援に力を入れる(家族で参加できる行事を継続して行う等)。 保護者のコミュニティづくりを、よりサポートする取り組みを実施する(行事、イベント、座談会等)。
2	集団での遊びを通して個別支援をしている。 一人一人の発達段階に合わせた課題を見極め、ねらいをもって支援をしている。	クラスやメンバーにより使うアイテムを変える等、個別・集団によりねらいが異なるため支援内容を変えている。 視覚支援や意思伝達装置を導入し活用している。 PT・OT・STに月1回保育参加してもらい、個別支援のアドバイスをもらって保育に取り入れている。	同じあそびの中で、異なる個別支援をそれぞれの子どもに提供できるよう、療法士(PT・OT・ST)と職員間でより連携して取り組む。 さらに多職種が連携して、より良い支援を目指す。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通園なので、登園できる日が限られ、利用回数が増えにくい。	就労している保護者も多く、平日に休みがとれる回数に限られる。曜日を振り替えての登園も難しい方もいる。 利用者のほとんどが保育園や幼稚園等との併行通園をしているため、週1回登園の人が多い。	①今年度からクラス保育の他に「あずかり保育」を設けた。完全分離のため定員は数名。幼稚園の長期休みや保護者の用事などに利用してもらえた。 ②土曜日に全クラス対象のイベントを行った。 ①②いずれも利用回数増につながった。次年度も継続する。利用日数の上限があるので、実施回数は検討する。
2	保護者やきょうだいへの支援が不足している。	行事やクラス参観の他に、保護者やきょうだいと交流する機会にもなるよう全クラス対象で土曜日のイベントは行っているが、まだ取り組みとしては不足していると考ええる。	次年度は年間計画で保護者・きょうだい支援の機会を組んでいく。保護者向けの勉強会や座談会等を多職種で連携して実施する予定。
3	業務改善や職員の資質向上を図る取り組み。	業務改善に少しずつ取り組んできてはいるが、職員の配置に課題があり、それぞれの職員が互いに協力するような体制づくりに欠ける。	業務や保育の意図をチームで考え、不要な業務を減らし、質の高い保育に力を注げる体制づくりをする。 他の職種、他のセンターからアドバイスをもらえるようにする。研修に出られる体制を整える。